

A病院看護部のBSC推進の評価

田 端 五 月 千 代 慶 子 平 岡 康 子

Key Word: BSC, 看護師, 評価

要 約

目的:看護師のBSCの理解, 部署での運用や参画の現状を調査し, 導入の目的がどの程度達成されているかを評価し, 今後の課題を明らかにする。

方法:研究デザインは記述的量的調査である。対象はA病院全看護師, 研究期間は平成28年10～11月であった。先行研究を参考に自記式アンケートを作成。部署責任者を通じて配布し留め置き法にて回収し, 各質問項目について, 「とても当てはまる」～「全く当てはまらない」の4段階で回答してもらった。「とても当てはまる」「当てはまる」を肯定的回答として単純集計した。

結果及び結論:導入目的であるミッション, ビジョンの浸透, 目的の共有は肯定的評価が高く達成されていた。作成への参画, モチベーションの向上が今後の課題となった。

I はじめに

A病院では2009年にBSCを導入した。導入の目的は, 1. ミッション, ビジョンの浸透, 2. 目的の共有とベクトル合わせ, 3. モチベーションの向上の3点である。

病院BSCは12月に病院四役とBSC推進委員が作成し, 1月の幹部職員研修会でアクションプランを検討している。完成したBSCは2月に職員に公開され, それを基に医師部門を除くすべての部署でBSCを作成し, 4月中旬に発表会が行われる。10月に中間発表, 11月に報告会を表彰している。BSCの活用に関して中島ら¹⁾は2014年に財務の視点からの導入効果を報告している。BSCによって年間を通じたPDCAサイクルが定着してきたが, BSCの導入目的が達成できているのかを評価し, 新たな課題を見出す時期にきている。

この度運用の評価を行ったのでその結果と看護部の目標管理の概要を報告する。

II 研究目的

看護師のBSCの理解, 部署での運用や参画の現状を調査し, 導入の目的がどの程度達成されているかを評価し, 今後の課題を明らかにする。

III 看護部の目標管理の概要

看護部では病院のBSCに連動した戦略テーマを設定し, スコアカードを作成している。病院のBSCの中から看護部の強化事項を軸とし, 戦略目標, 重要成功要因, 成果尺度, 目標値, アクションプランを立案している。作成は看護部長と看護副部長で行い, 最終的には師長会議で検討し具体的に何に取り組み, 何を改善するのかを完成させる。推進部署は看護部の委員会やチームが主となり進捗管理を行っている。

対象部署を明示する事で, 取り組む部署が一目でわかる。推進部署は看護部の委員会や病院のチームが主となり進捗管理を行っている。各部署では係やリンクナースが推進者となり, 個人のBSCにも展開している(図1)。部署BSCは会議を活用して部署責任者がプレゼンテーションを行い, 他部署の取り組みを共有する機会としている。

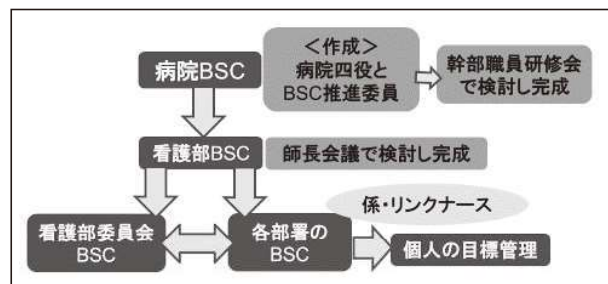


図1. 看護部の目標管理の概要

旭川赤十字病院 看護部

The value of the BSC promotion in the A hospital nursing management office

Satsuki TABATA, Keiko SENDAI, Yasuko HIRAOKA

Asahikawa Red Cross Hospital

IV 調査方法

- 1.デザイン:記述的量的研究
- 2.対象:A病院全看護師649名
- 3.期間:平成28年10～11月
- 4.データの収集・分析方法:先行研究²⁾を参考に自記式アンケートを作成した。部署責任者を通じて配布し留め置き法にて回収した。各質問項目について、「とても当てはまる」「当てはまる」「当てはまらない」「全く当てはまらない」の4段階で回答してもらった。
- 5.分析方法:「とても当てはまる」「当てはまる」を肯定的回答として単純集計した。
- 6.倫理的配慮:対象者へ調査の目的、内容、参加の自由意思、不参加による不利益はない事を書面にて説明した。得られた内容は目的以外には使用しない事、公表にあたっては個人が特定されることはなく、プライバシーの保護を約束し、調査用紙の提出をもって同意とみなした。A病院倫理委員会に申請し許可を得た。

V 結果

539人から回答が得られ、回収率は83.1%であった。

1.基本的属性:(図2～5)

雇用形態は正規職員が498人(92%)、それ以外が41人(8%)であった。勤務年数は1年目25人(4%)、2～5年目が128人(24%)、6～11年目が102人(19%)、11～21年目が144人(27%)、21年目以上が140名(26%)であった。役職ありが72人(13%)、役職なしが467人(87%)であった。病院BSC発表会に参加した事があるのは180名(33%)、なしが467名(87%)であった。

2.理解度・効果:(図6～13)

各質問に対する肯定的評価の結果を以下に示す。「病院のビジョンを理解している」は414人(76.8%)、「BSCとは何か(構造や意義)を理解している」は395人(73.3%)、「BSCで病院の目標(戦略)がわかった」は416人(77.2%)、「アクションプランを意識した行動をとった」は423人(78.5%)、「BSCで所属部署の目標(戦略)がわかった」は480人(89.1%)、「所属部署のBSC作成に参画した」は316人(58.6%)、「BSCで個人の役割が明確になった」は433人(80.3%)、「BSCでモチベーションがあがった」は226人(41.9%)であった。

VI 考察

肯定的評価の割合をみると、導入目的「1.ミッション、ビジョンの浸透」、「2.目的の共有とベクトル合わせ」についての肯定的評価が70%代と高い結果であり、調査結果よりBSCの理解、病院・部署のビジョンや目標(戦略)は浸透している事が伺え、推進の成果と考える。目標管理においてもBSCによって病院―看護部―委員会の目標が連動し、各部署のBSCも方向性が合わせやすく、スタッフ個々がそれぞれの所属部署の戦略を理解しやすいと考える。また役割を明確にする事によって、個人が具体的にアクション

プランを遂行できるため、BSCを意識した行動に結びついておりBSCは効果的な目標管理ツールと考える。

しかし、作成への参画は低く、師長・係長などの役職者以外は機会が少ないことが要因と推測する。先行研究²⁾においてもBSCが単なる業績指標ツールになることが懸念されており、職員全体で作成する意義について述べられている。BSCの作成・評価・修正においては、部門・部署内でPDCAサイクルを回し、検討の過程を通じてビジョンを実現する必要がある。コミュニケーションや相互理解の観点から、部署内での参画意識を高める事は重要である。

「3.モチベーションの向上」については、院内に表彰制度はあるが優秀部門に限られている。部署間での共有を通して学びあう機会、部署レベルで役割期待を伝えることや承認など、効果的な事例を積み上げていくことも必要である。

今後基本的属性別の傾向など、更なる分析が課題である。

VII 結論

導入目的であるミッション、ビジョンの浸透、目的の共有は達成されていた。作成への参画、モチベーションの向上が今後の課題となった。

本内容は第15回日本医療バランスト・スコアカード研究学会(東京)において発表した。申告すべきCOI状態はない。

文献

- 1)中島雅己ほか:旭川赤十字病院におけるBSCの活用について、医療バランスト・スコアカード研究, 11(1), 112-115, 2014.
- 2)羽田明浩:BSCの導入効果, 立教ビジネスレビュー, 第3号, 136-146, 2010.
- 3)山中ひろみほか:当院におけるBSCの作成・運用の部署別成果の検討―2009年度BSCの運用結果及び部署長の意識調査から, 医療バランスト・スコアカード研究, 8(1), 137-142, 2011.
- 4)吉村成雅ほか:関中央病院グループにおけるBSCの浸透と有用性について―一部署・委員会運営における職員への意識調査, 医療バランスト・スコアカード研究, 11(1), 77-81, 2014.
- 5)三宅憲治ほか:2因子構造の分析結果からみる当院BSCの有効性と課題, バランスト・スコアカード研究, 2(1), 81-85, 2015.
- 6)牧野憲一:病院を活性化させるためのBSCの利用, バランスト・スコアカード研究, 12(1), 21-25, 2015.
- 7)林挿子:戦略コミュニケーションツールとしてのバランスト・スコアカード, 56(4), 130-135, 企業会計, 2004.

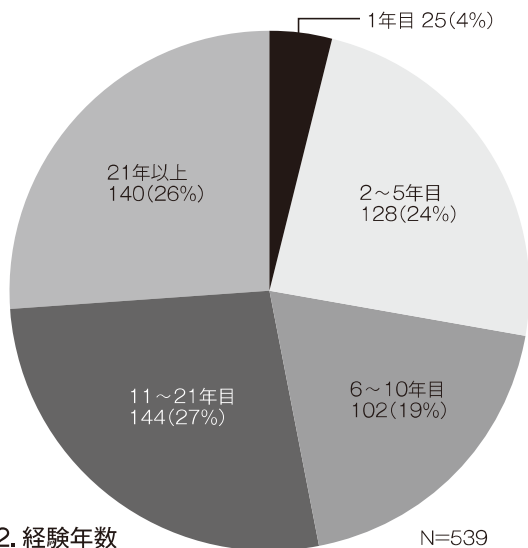


図2. 経験年数

N=539

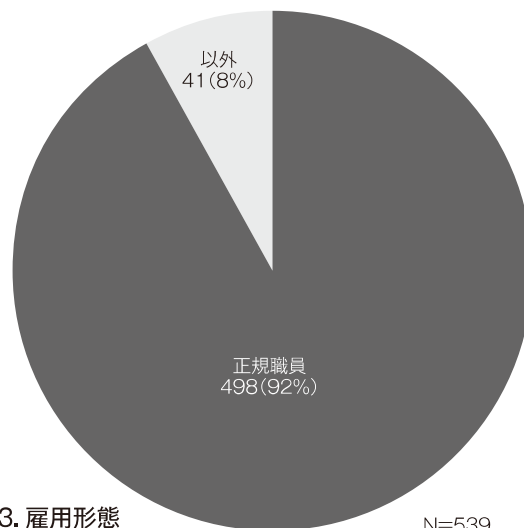


図3. 雇用形態

N=539

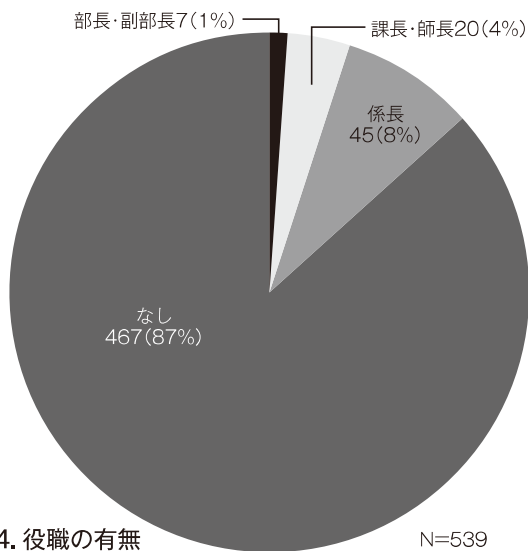


図4. 役職の有無

N=539

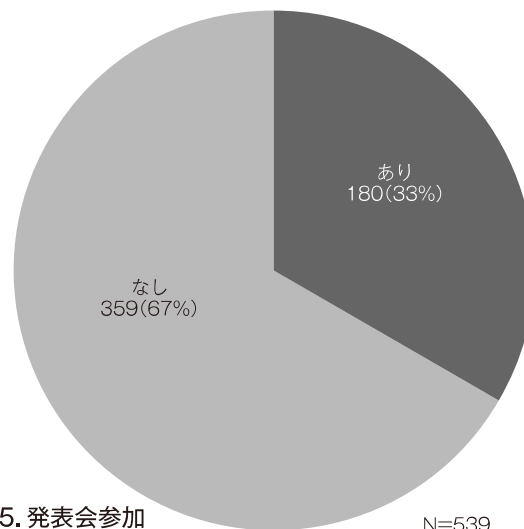


図5. 発表会参加

N=539

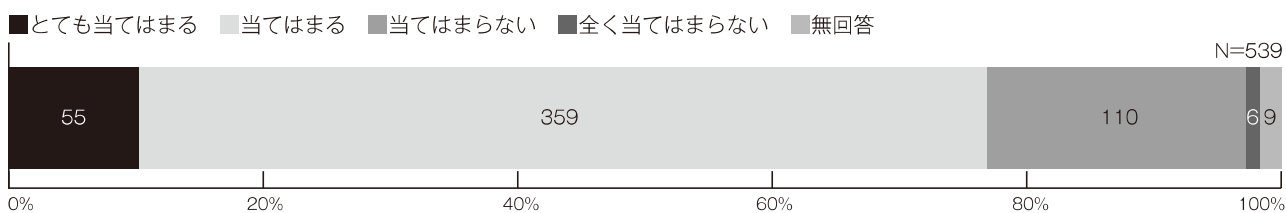


図6. 病院のビジョンを理解しているか

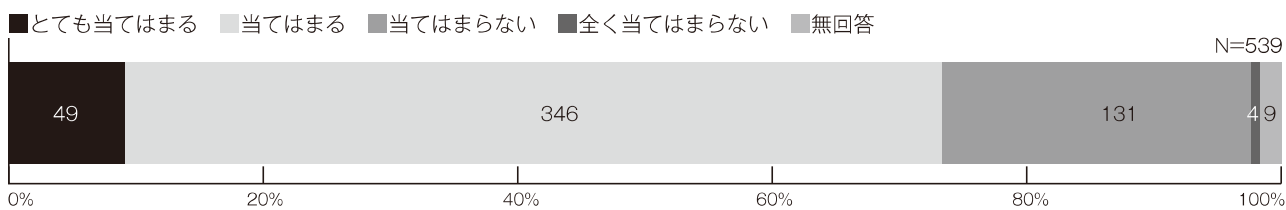


図7. BSCとは何か(構造や意義など)理解しているか

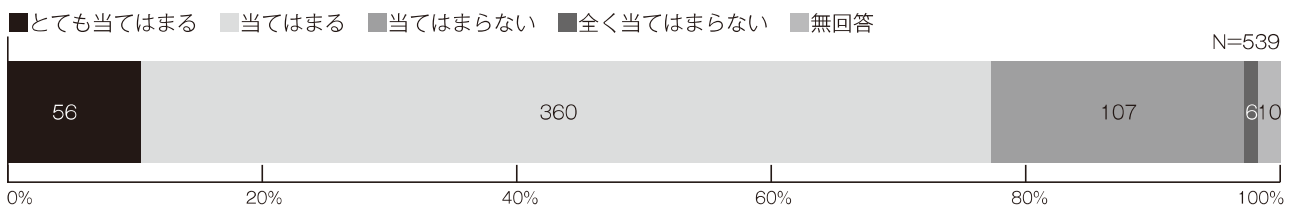


図8. BSCで病院の目標(戦略)はわかったか

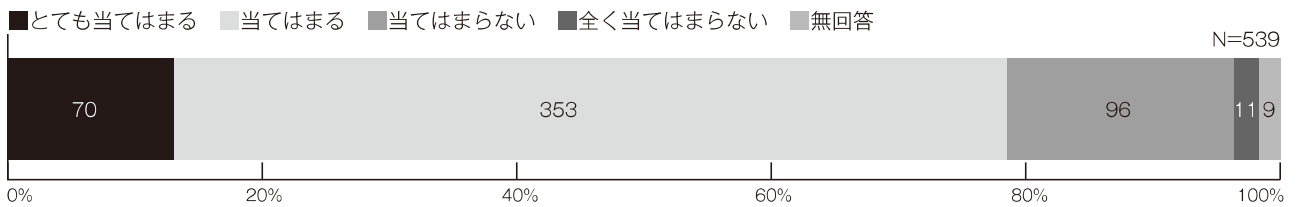


図9. アクションプランを意識した行動をとったか

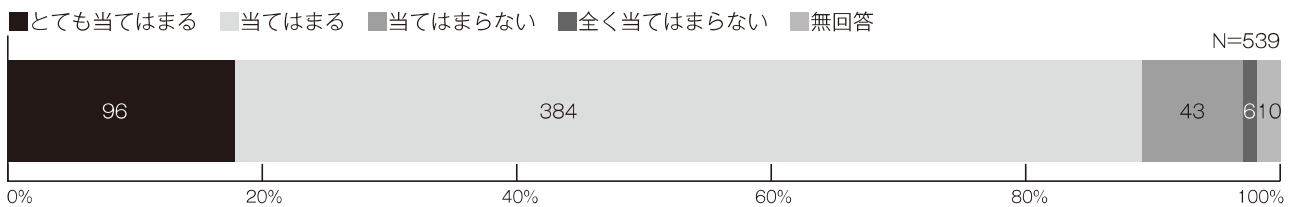


図10. BSCで所属部署の目標(戦略)はわかったか

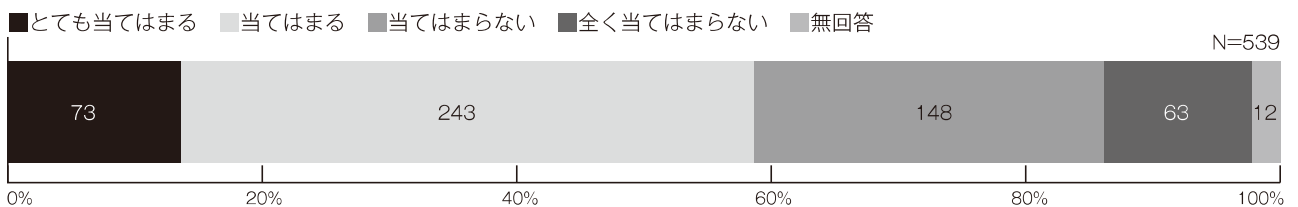


図11. 所属部署のBSC作成に参画したか



図12. BSCで個人の役割(個人目標)は明確になったか

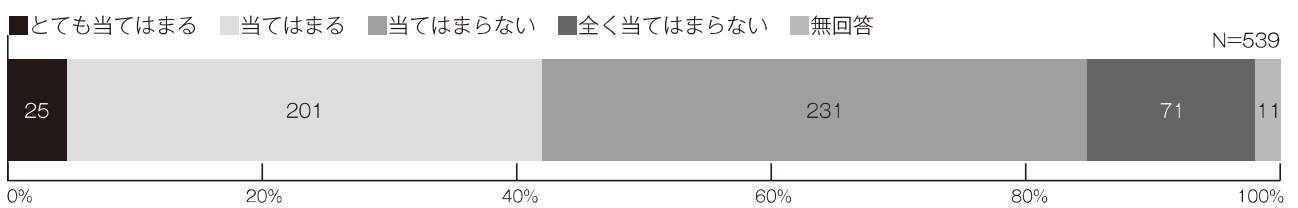


図13. BSCとは何か(構造や意義など)理解しているか